

「チーム医療推進のための大学病院職員の人材養成システムの確立」 事業結果報告書

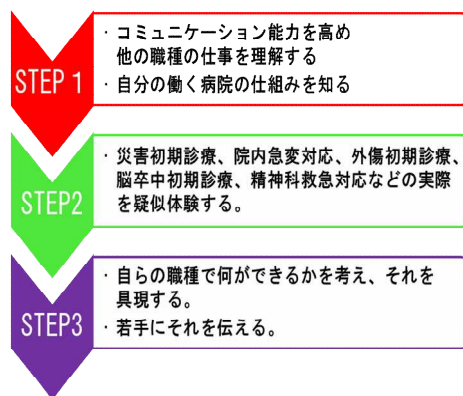
大 学 名	昭和大学
取 組 名 称	多職種協働の救急チーム人材養成システム
取 組 期 間	平成23年度～平成25年度（3年間）
事業推進責任者	病院長 有賀 徹
W e b サイト	
取 組 の 概 要	<p>本事業は、本学における教育理念と医系総合大学の特色を生かし、救命救急センターをベースにした多職種協働による体系的な人材養成を目指すものである。</p> <p>救急医療の現場で、多職種の専門集団が容態変化の<u>情報を共有</u>し、自然発生的に<u>相互乗り入れ</u>をしながら、<u>連携・補完</u>し合っている「<u>暗黙知</u>」をプログラムに反映させ、システム化を図る。</p> <p>以下①～③を実施する。</p> <p>①コミュニケーション能力を高め、多職種のことを理解するための基礎教育コース開催</p> <p>②救急医療の中で、急変対応・災害対応と、初療に参加するための知識や技術を模擬診療等を通して高度な専門性に基づくチーム医療を多職種で学ぶ、急変対応コース・災害対応コース開催</p> <p>③多職種の専門性向上のために、各々の職域で、専門性を高める教育</p> <p>以上、救急医療を多職種のチーム医療人材養成の中核として、全国規模で拡大を図る。</p>

取組の実施状況等

I. 取組の実施状況

(1) 取組の実施内容について

多職種（医師・看護師・薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・理学療法士・臨床工学技士・管理栄養士・診療情報管理士・医療ソーシャルワーカー・医療事務【管理課・医事課】）で選抜された職員、計12職種で主に3つのプログラムチームを構成。ステップ①基礎教育コース、ステップ②急変対応コース・災害対応コースを開発・実施。ステップ③参加した職員から救急におけるチーム医療に関する提案を収集。



STEP1 プログラム
基礎教育コース

1. コミュニケーション能力を養う

- ① 自己紹介ゲーム(55分)
- ② コミュニケーションゲーム(90分)
- ③ 地域フォト探検ラリー(150分)

2. 多職種を知る

- ・院内ツアー(他部署訪問)
各部署15～30分
グループごとに1～2日
参加者: 4～6人×3グループ
ファシリテータ: 各ゲーム2～3人

STEP2 プログラム
院内急変コース

>モジュール1:
チームによる一次救命処置を体験する

>モジュール2:
救急初療室でのチーム蘇生を体験する

>モジュール3:
集中治療室での治療を体験する

>モジュール4:
転院・退院調整時のカンファレンスを体験する

STEP2 プログラム
災害対応コース

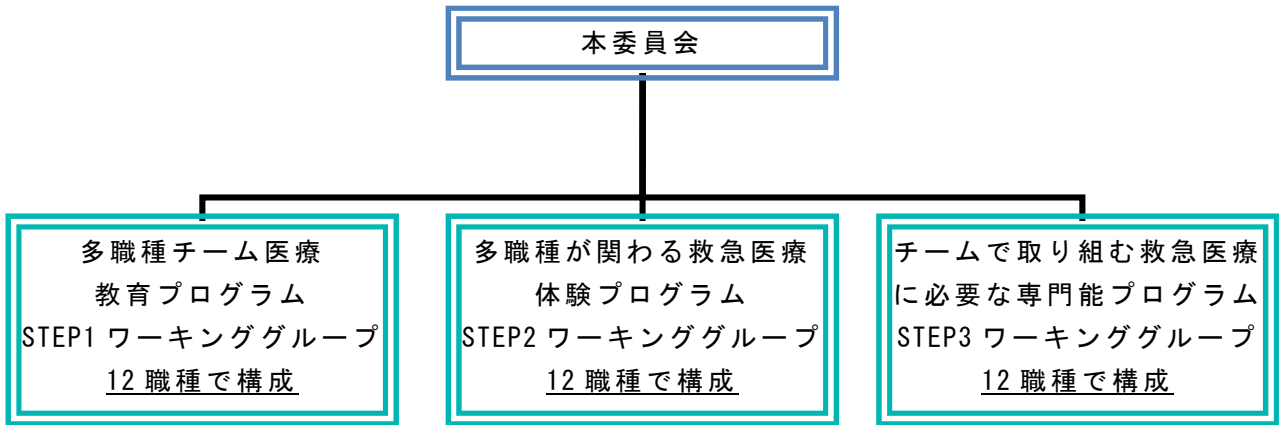
>Module1 講義
災害医療概論・発災時の初動の確認

>Module2&3: 実技
災害トリアージの体験・各治療エリアの体験

>Module4 実技
患者搬送方法の体験

上記コースを受講した職員を対象に**専門職として自らの職種で知識・技能をどのように高め、補い、救急チームの一員として何ができるか**考えて具現化していくかを検討していく機会を設けた。

(2) 取組の実施体制について



(3) 地域・社会への情報提供活動について

本事業の取り組みを冊子、学会発表、デジタルサイネージなどで適宜公表した。その他、シンポジウムや公開成果報告会を最終年度に開催。

平成 25 年 11 月 29 日 (金) 【東京会場】

チーム医療の実践における現状と課題～急性期医療を推進させる～

急性期におけるチーム医療については、短期間に急速に多職種協働の、大きな特徴がある一方で、専攻によって生活も取り違えるという、困難な協働のチーム医療の視点がとらえなければならない。例えば、急性期医療のなかで最新の患者の確保や救急隊員への対応は重要である。例えば、急性期医療の困難な状況に「シフト」を要している。このような状況でも必要なのは、困難から学ぶ姿勢と、急性期におけるチーム医療の視点を意識し、課題を克服せねばならない。「よい医療者」を輩出する「昭和大学の体制から見れば、開発病院はそのための場であり、従って良質なチーム医療は求められて当然である。チーム医療の推進についての視点をも「開発」の観点からも議論を期待する。

【プログラム】

9:25-9:30	集合挨拶	一般社団法人 日本病院会 副会長 末永 昭之
9:30-9:50	特別講演1 チーム医療と医療組織の進化	日本病院会 病院診療の向上検討委員会 委員長 昭和大学病院 院長 柳野 豊
9:50-10:20	特別講演2 昭和大学における学際(医・歯・薬)保健医療学部(連動的な)チーム医療の卒業教育	昭和大学 薬学部 薬学教育学教授・薬学教育推進室室長 末内 祐二
10:20-12:30	シンポジウム チーム医療の発展に向けて～急性期医療を推進させる～	
1) 昭和大学における「多職種協働の救急チーム人材養成システム(卒業教育)」について 昭和大学 医学部 救急学講座 救命救急センター 院長 柳野 豊		
2) 急性期病院における医療管理について～現状と課題、今後の展望～ 昭和大学病院 薬剤科 科長補佐 柳野 大次		
3) 急性期病院におけるリハビリテーション看護について～その現状と課題～ 昭和大学病院 看護部 看護教育課長 大野 龍夫		
4) 昭和大学病院における臨床診療～チーム医療の現状と課題～ 昭和大学医学部歯学部歯学講座・昭和大学病院歯科 院長 貞原 昌		
5) 急性期対応等看護部から見た病院医療のあり方 昭和大学病院総合救急センター 目上 由香子		
6) 急性期以降からさかのぼる「急性期病院の光と影」 日本赤十字社 救急医療部 地域連携課 救急センター 石原 雅子 ※発表後、特別講演2をまとめた冊子によるシンポジウムを実施 司会：病院診療の向上検討委員会 委員長/昭和大学病院 院長 柳野 豊 病院診療の向上検討会 委員長/国立医療研究開発センター 副院長 柳野 豊		
12:30-13:30	休憩	
13:30-16:00	施設見学	

※カリキュラム、講師等は変更になることがありますが、予め承認されています

◆シンポジウム◆

厚生労働省平成 25 年度多職種協働によるチーム医療の推進事業シンポジウム (2013.11.29 東京会場 昭和大学病院) 『昭和大学における「多職種協働の救急チーム人材養成システム(卒業教育)」について』救急医学科 萩原 祥弘

文部科学省 大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)
チーム医療推進のための大学病院職員の人材養成システムの確立

多職種協働の救急チーム人材養成システムの構築

成果報告会

開催日時 平成26年2月13日(木) 17:30～19:30

会場 昭和大学病院 入院棟地下1階 臨床講堂 入場無料

お申込み メールアドレス: sachi0922@ofc.showa-u.ac.jp または裏面のFAX用紙からお申込みください。

プログラム

開会挨拶 事業推進責任者 昭和大学病院 病院長 有賀 徹
来賓挨拶 文部科学省 高等教育局 医学教育課 大学病院支援室 病院長第二係長 西尾和幸氏

成果報告
チーム「多職種連携型教育プログラムに取り組んで」
産科 救急医学講座 教授 救命救急センター センター長 三宅 康史

『多職種チーム医療教育プログラム』
『多職種が関わる救急医療体験プログラム』～災害対応・急変対応～
『チームで取り組む救急医療に必要な専門職プログラム』
『トリアージ情報共有システムの構築』

◆問合せ・連絡先◆
チーム医療プロジェクト 事務局スタッフ 担当: 赤坂 (昭和大学病院 管理第二課内)
メールアドレス: sachi0922@ofc.showa-u.ac.jp
〒142-8508 東京都品川区旗本3-9-9
TEL: 03-3784-8785 FAX: 03-3784-8317

◆公開成果報告会◆

平成 26 年 2 月 13 日に本事業の最終報告・総括として、昭和大学病院で公開成果報告会「文部科学省 大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)チーム医療推進のための大学病院職員の人材養成システムの確立ー多職種協働の救急チーム人材養成システムの構築ー」を開催

Ⅱ. 取組の成果

(1) 目的・目標

事業全体、各プログラムの目的・目標を明確に定め、それに向けてファシリテーター、受講者が取り組み、成果につなげた。

◇目的◇

STEP1 自分の病院の中で働く他職種の人たちの顔を知り仕事を理解する

STEP2 救急医療におけるチーム医療の利点（場合によってはその欠点）を知る

STEP3 自分の職種・経験から、救急医療の中で役立つ場を見つける・磨く・伝授する

◇目標◇

①全体

- 安全で標準的な医療を提供するために、チーム医療のよさを認識する
- チーム医療を更に良い形にするために、他職種のことを理解する
- 急変、精神科救急や災害に対応できるように、救急医療の実際を知る
- チーム医療の中で役立つために、自分の職種でできることを模索する

②STEP1 多職種チーム医療教育プログラム教育基礎コースの目標

- チーム医療推進のカギともなるコミュニケーション能力向上
- 各部署に他職種の業務内容や活動を理解し「コミュニケーションリーダー（つなぎ手）」として活動する人材の養成

③STEP2 多職種が関わる救急医療体験プログラム

院内急変コース

- 救急医療の実際を知る
- 多職種の役割を知る

災害対応コース

- 災害時における、自動参集・情報収集手段・待機場所といった初動を理解する
- 救急外来で行われる具体的な傷病者の流れを知る
- トリアージの方法・治療エリアの概要を知る
- 病棟でも必要となる患者の安全な搬送方法を身に付ける

④STEP3 チームで取り組む救急医療に必要な専門能プログラム

- チーム医療の中で役立つために、自分の職種でできることを模索する
- 自分の職種・経験から、救急医療の中で役立つ場を見つける
- 常に役立つ最新の知識や技能を磨く
- それを同じ職種の後輩に伝授する



教育者のハートに火をつける！シミュレーション教育セミナー

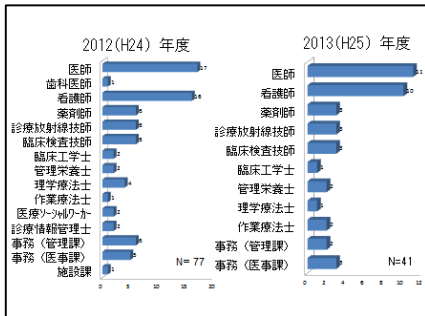


ノンテクニカルスキルの向上

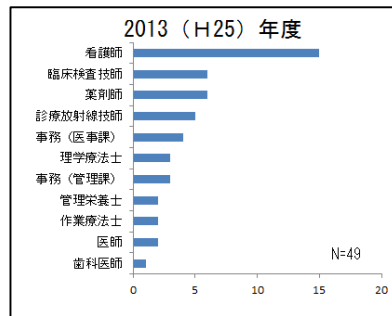
(2) 各プログラムの成果

①各コース職種別参加人数

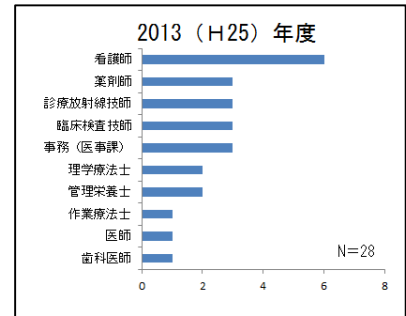
STEP 1 基礎教育コース



STEP2 院内急変コース



STEP2 災害対応コース



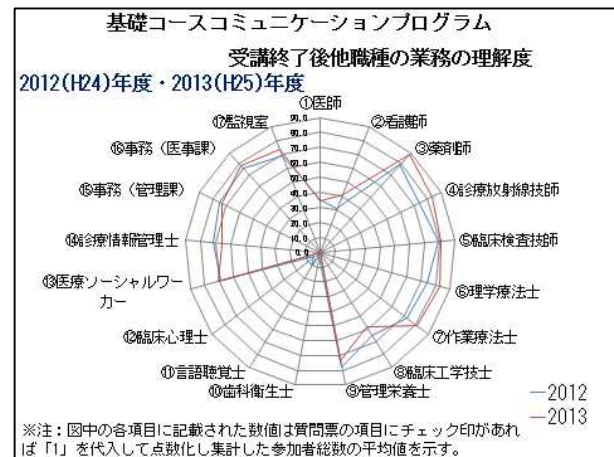
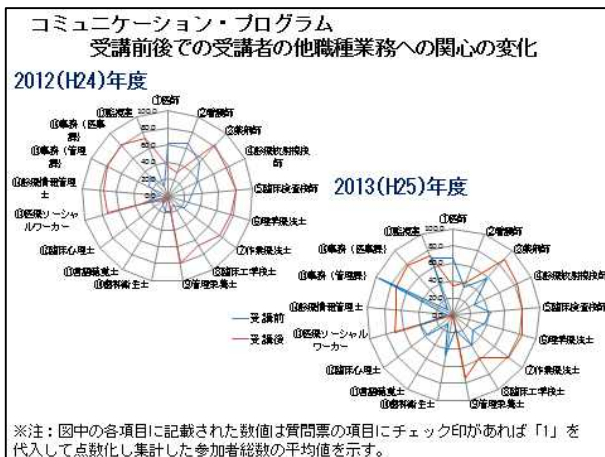
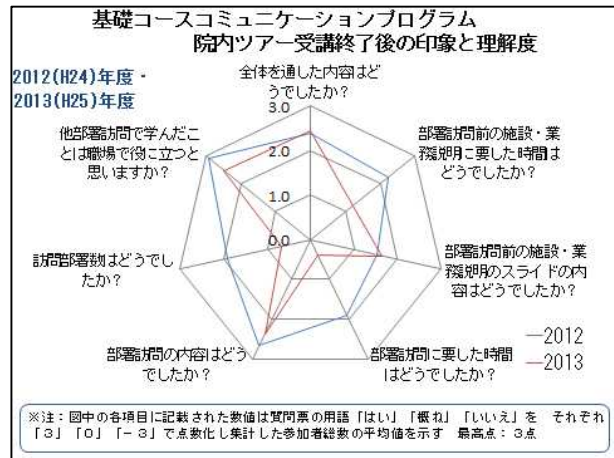
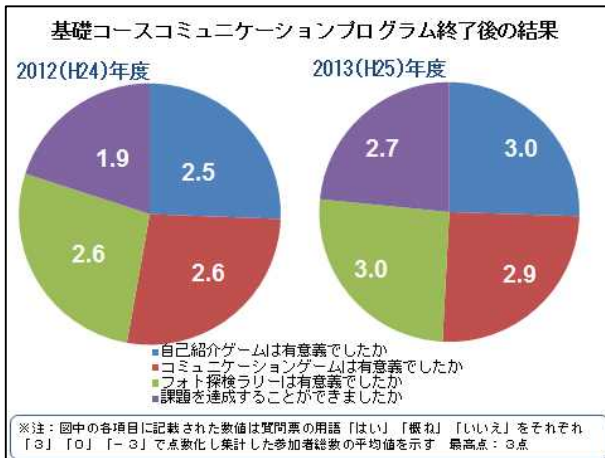
②各コースにおける受講前・受講後の変化と成果

参加者の参加前後の行動変化を調べ、開発した各プログラムの実施と効果を評価するために、受講前後のアンケートを作成。各アンケートの質問項目へのチェックの有無で点数化し、評価した。

◇STEP1 多職種チーム医療教育プログラム教育基礎コース◇

下記の通り一定の成果を得る結果となった。

※臨床心理士、言語聴覚士、歯科衛生士の業務への関心の変化や理解度が極端に低い結果となった要因は、該当部署への訪問を含めなかったことが考えられる。

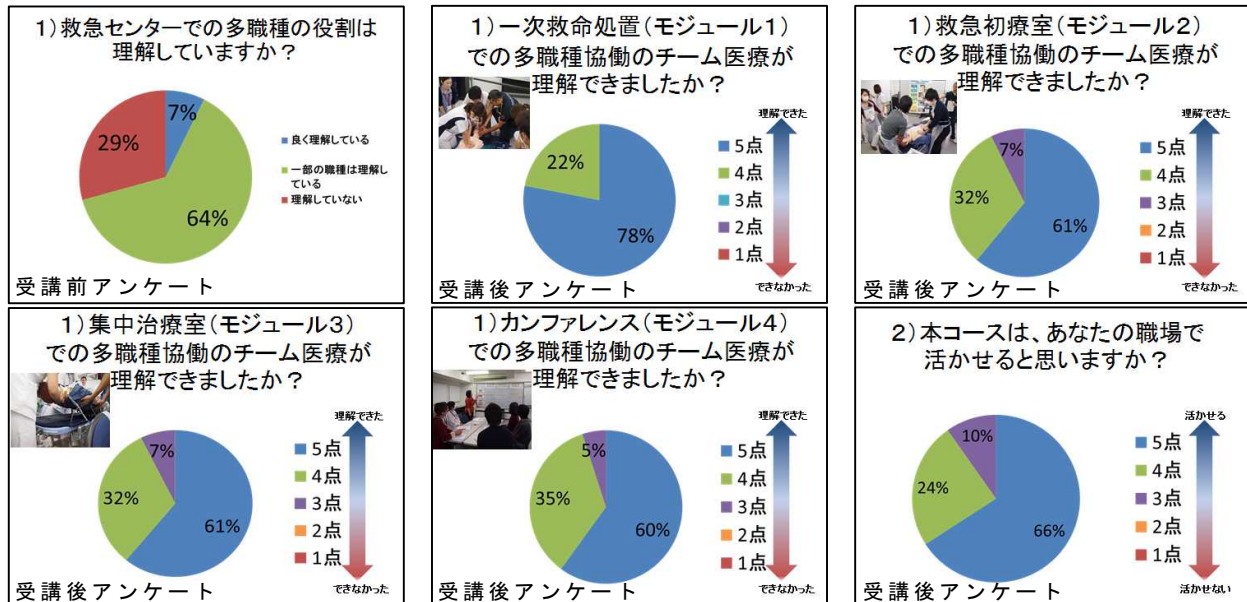


◇STEP2 多職種が関わる救急医療体験プログラム◇

院内急変コース

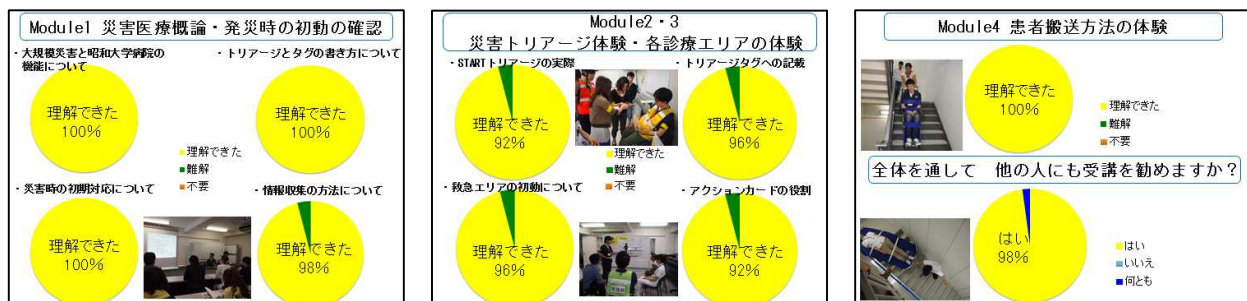
受講前アンケートの「救急センターでの多職種の役割は理解していますか？」との質問に良く理解していると答えた7%は全て医師であり、64%の人が日常業務で関わる職種のこと以外は理解していない傾向にあった。理解していないと答えた29%は、救急センターとの関わりが少ない職種であった。

本プログラムを受講したことで、下記の通り一定の成果を得る結果となった。



災害対応コース

トリアージ体験や各診療エリア体験は難解であったとの回答もあったが、下記の通り一定の成果を得る結果となった。



◇STEP3 チームで取り組む救急医療に必要な専門能プログラム◇

STEP2 のコースを受講した職員に、専門職としてあなたの職種で知識・技能を高め、補うための具体的手法について上げてもらい、後日フォローアップアンケートを実施し、状況確認を行った。

《回答例》

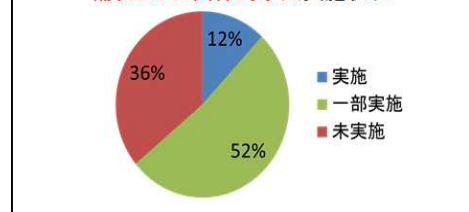
情報の共有 同一職場内でのディスカッション (医師)

- ・ インシデントなど問題事案のふりかえり (看護師)
- ・ フィジカルアセスメントの知識・技能の向上 (薬剤師)
- ・ 災害支援時の携行医薬品のリスト作成 (薬剤師)
- ・ 相互理解と連携を図るカンファレンス (診療放射線技)

全体としての成果

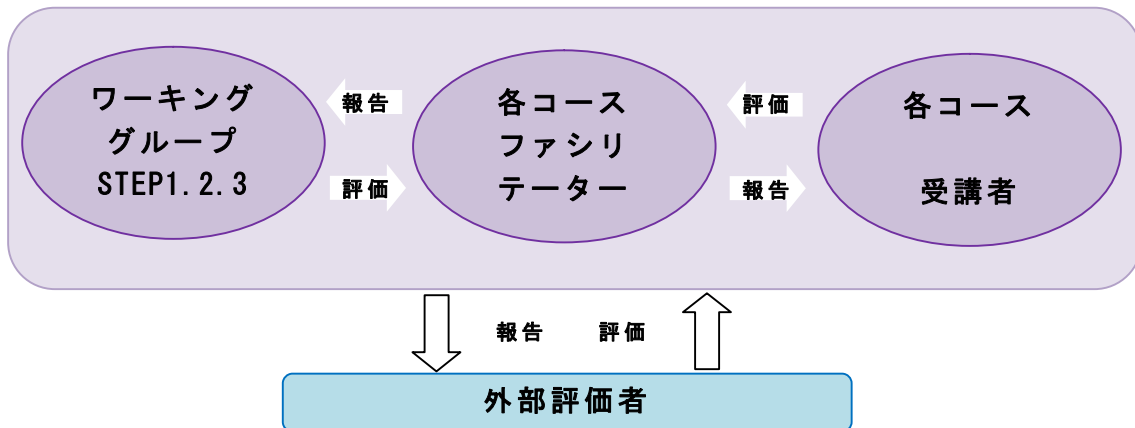
- ◆ 全ての職種が参加できる **職種横断型のコース構築**により、実臨床につながった。
- ◆ チームでの **協力・相互理解**により各職種との関わり合いが増えた。

専門職としてあなたの職種で知識・技能を高め、補うための具体的手法実施状況



Ⅲ. 評価及び改善・充実への取組

(1) 評価・改善体制



(2) 各プログラムの評価

STEP 1 多職種チーム医療教育プログラム教育基礎コース

- ・コミュニケーション力と計画力、役割分担が学べた。
- ・人をまとめる立場になるなかで他者の意見を取り入れ、チーム力を深めるための考察をもてるようになったと思う。
- ・プログラムに費やす時間が長すぎる。
- ・自分の仕事とプログラム参加の調整がやや大変でした。
- ・他職種の仕事内容を知る事で、今後の連携に役立ちそうです。



教育基礎コース マトリクス自己紹介

STEP2 多職種が関わる救急医療体験プログラム 院内急変コース



院内急変コース 集中治療室での治療を体験（レントゲン撮影）

- ・普段できない多職種とのカンファレンスを実施することで、各職種の重要性を把握できた。
- ・事務では、医療の現場を体験することがほとんどないので、レセプト関係でカルテを見る時にイメージが思い浮かびやすくなった。
- ・実際の現場の状況を体験することで、自分の立場で行うことを考えるきっかけになった。
- ・この質を維持しながらもっとたくさんのスタッフに参加してもらいたい。

STEP2 多職種が関わる救急医療体験プログラム 災害対応コース

- ・実際にトリアージをしてみて、短時間で情報を得ていくのが難しいと痛感しました。トリアージ体験が出来て良かったです。
- ・搬送の苦勞と患者さんの苦痛が理解でき、有事の際に役立つと思った。
- ・もう少し現場がイメージできる説明や写真があった方がよい。
- ・一度参加した人も再確認できる機会があると良いと感じました。



災害トリアージ、治療エリアについての座学

(2) 改善方法

各プログラムのコース終了後にファシリテーターが集まり、コース内容・設計の見直し等をデブリーフィングやアンケート結果を基に行い、その都度多職種間で話し合い、改善案を出し合える環境を整え、良質なプログラムの構築・充実へとつなげた。

(3) 充実への取組

- ・プログラムの質は維持しつつ、開始時間の変更や時間の短縮により、業務への支障を最小限にした。(STEP1)
- ・モジュール1～4まで全てのシナリオを各職種のファシリテーターが担当可能にしたことで、スタッフの確保が容易なり、コースの定期開催を可能とした。(STEP2)
- ・コース内容をブラッシュアップしていくことで、コースよりドロップアウトする人がほとんどいなく、受講者の90%以上の人の満足につながった。(STEP2)
- ・国内外の視察を行い、他施設を多職種の目線で知見することで、チーム医療の幅を広げることにつながった。
- ・シミュレーションセミナーに参加することにより、良質なシナリオ作成や必要物品の選定を可能とした。
- ・受講者数を増やしていくために年間スケジュールを作成し、病院内のアナウンス、アピールを強化した。(STEP2)
- ・海外より講師（ハワイ大学 Sim Tiki Simulation Center Benjamin Berg M.D）を招聘し、主にリーダーシップの育成やFacilitateとTeachingの違いについて学び、プログラムのブラッシュアップにつなげた。



札幌中村記念病院視察



オーストラリア St George Hospital 視察

**教育者のハートに火をつける！
シミュレーション教育セミナー
～TeachingとFacilitationの違い～**

基礎コース：シミュレーション環境（第1回）～ファンダメンタルズ～
アドバンスコース：リーダーシップの育成と教育者の役割の明確化、現場への実践的応用

日時・会場：2013年11月25日（月）12回制
 基礎コース 19:00～17:00 中央棟7階 教育研修室
 アドバンスコース 18:00～20:00 中央棟7階 食堂

対象者：臨床職員、研修医（研修医・研修医候補生）
 申込先：チーム医療 事務スタッフ 管理課二課 庶務（あかお）
 TEL: 03-3734-9786
 E-Mail: iia@0922.ncc.chowa-u.ac.jp

あちっぴご参加ください！
 当教育センターでは、JATC/ICLS-BLS等を運営しております。ご希望の際にはお声かけください。

IV. 財政支援期間終了後の取組

1. 継続実施・実施体制

(1) 年間スケジュールの作成
各コースが院内業務の一環として運営され、さらなる改訂をしていくことで、良質なプログラム実施の維持となる。

今後も実施体制は各プログラム、多職種で運営。チーム医療の充実につながるよう、体制強化に向けワーキンググループの増員も視野に取組む。

またスケジュールを基に予算申請し、運用経費を捻出。

「平成26年度院内急変コース」
年間スケジュール→

第1回	5月15日(木)	9時00分~12時35分
第2回	7月17日(木)	9時00分~12時35分
第3回	9月18日(木)	9時00分~12時35分
第4回	11月20日(木)	9時00分~12時35分
第5回	1月15日(木)	9時00分~12時35分
第6回	3月19日(木)	9時00分~12時35分

(2) ファシリテーターの増員・育成

各コースの質の低下や衰退がないよう、各コースに参加した受講者等へ声かけを行い、ファシリテーターのさらなる増員・育成を継続していく。

(3) 多職種参加型コースの継続

今後も多職種メンバーでの運用・推進、多職種の病院職員が各コースに参加していけるよう、大学・病院により一層の理解を促す。

(デジタルサイネージや病院だよりによりコース紹介・募集案内等を掲載する)

2. 人材養成モデルの普及

(1) 今後も各施設・各部署より定期的に学会やシンポジウムでの発表を継続していき、内外へ周知徹底を図る。

本年度発表予定の学会・シンポジウム→

(2) 附属病院・関連病院、その他の大学病院と連携し、各コースを開催していくことで、広く普及していくよう、努めていく。

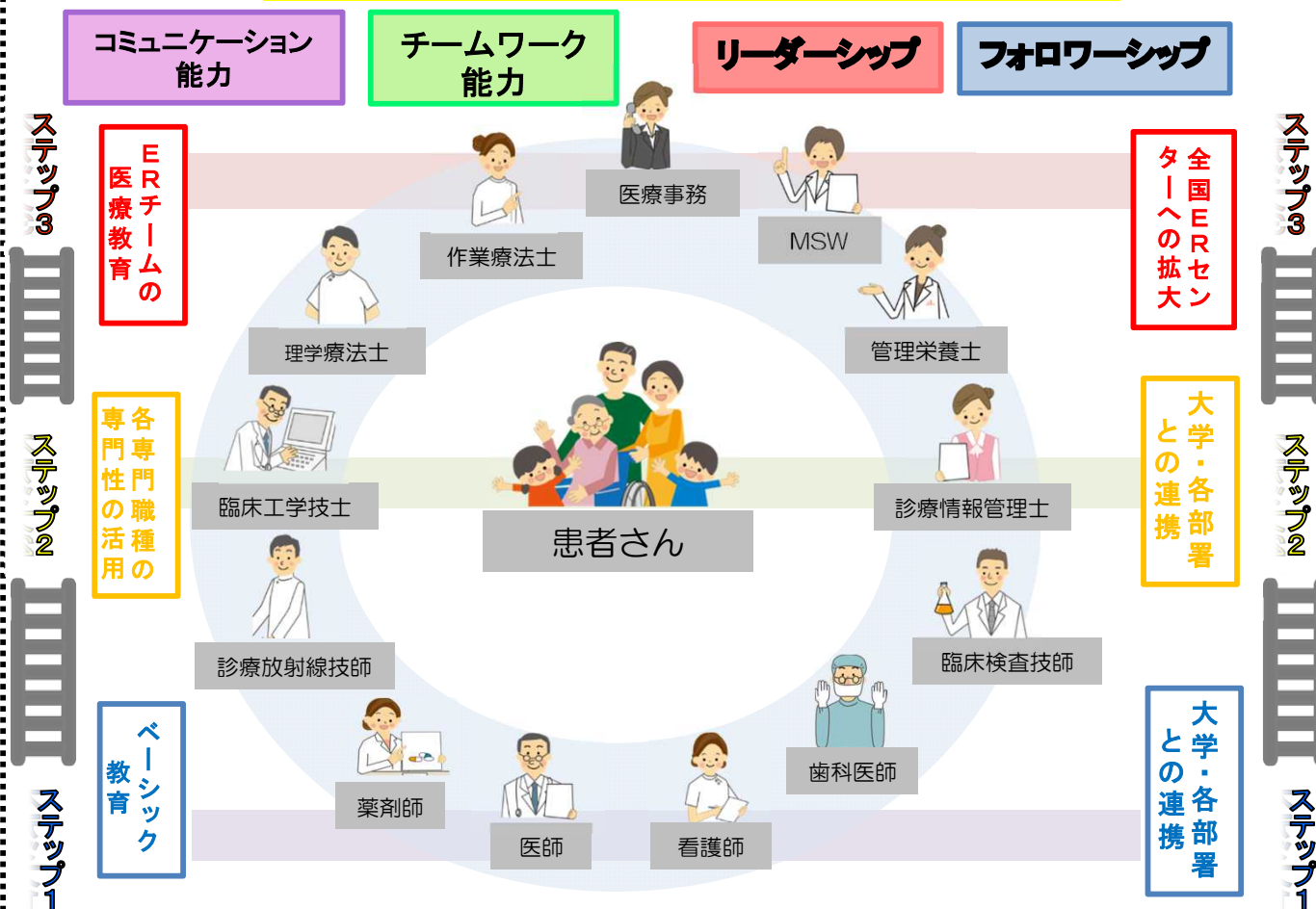
取組大学：昭和大学

取組名称：多職種協働の救急チーム人材養成システム

○取組概要

本事業は、大学における教育理念と医系総合大学の特色を生かし、救命救急センターをベースにした多職種協働による体系的な人材養成を目指すものである。

多職種協働の救急チーム人材養成システム



職種別参加人数

